

研究者交流支援制度 報告書

< 招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar >

1. 氏名/Name

Paul Adler

2. 所属機関・職名/Affiliation (Home Organization)・Position

University of Southern California・Professor

3. 研究期間（入国日～出国日）/Period of Stay（from the date of entry to departure）

2025 年 10 月 11 日～29 日

4. 専攻/Field of Research

Management

5. ホスト教員氏名と所属学部研究科等/Name of host teacher and affiliation

青木克生・経営学部

6. 講演会の概要（タイトル、日時、場所、参加人数、内容）

※ 20 日間の場合は 2 回分ご記載ください。

/Outline of the lecture (title, date and time, place, number of participants, content)

※If the invitation period is 20 days, please write about two lectures.

タイトル: Charting Alternative Responses to the Climate Crisis

日時: 2025 年 10 月 12 日(日) 10:00-12:00

場所: グローバルフロント 2 階 4021 教室

参加人数: およそ 30 人

内容: このセミナーはアドラー氏の著書である『99%エコノミー』の内容を説明する形で行われた。まず現代資本主義における危機を Economic irrationality、Workplace disempowerment、Government unresponsiveness、Environmental unsustainability、Social disintegration、International conflict との 6 点を中心に整理し、それに対するマネジメントの課題を Participative centralization、Integrative specialization、Enabling standardization、Interdependent individualism の 4 つの点を中心に説明した。その後に、Kaiser Permanente という Largest private-sector healthcare provider and one of the largest healthcare insurance companies in the US の事例を紹介し、Participative centralization が現代組織において実現可能であることが示された。さらに現代資本主義における危機を克服する将来的な可能性として Democratic Socialism への転換という選択肢が提示された。アドラー氏の報告の後には、99%エコノミーの翻訳者である増田氏と円城寺氏による日本語による解説が行われ、その後に質疑応答が行われた。アメリカにおけるテスラのような創業者企業の復権とそれを取り巻く株主至上主義の動向をどう解釈するか、Democratic Socialism を取り巻くこれまでの議論の動向などについての質問が提示され、12 時過ぎまで活発な議論が展開された。

タイトル: Charting Alternative Responses to the Climate Crisis

日時: 2025 年 10 月 22 日(水) 15:00-17:00

場所: グローバルフロント 1 階 グローバルホール

参加人数: およそ 15 人

内容: 第二回目のセミナーでは、現在世界的な問題となっている地球温暖化に対する経営学の取り組みとして、社会レベルのガバナンスのあり方についての説明が展開された。State capacity と Participation の 2 次元マトリックスをベースに、Corporate-led、Shared local、State-led、Shared global という 4 つの societal governance のタイプが提示され、Corporate-led の具体例としてアメリカの Uber、Shared local の具体例としてテキサス・オースチンの ATX taxi cooperative、State-led の具体例として中国 T3 Mobility、Shared global の具体例としてフィンランドの Helsinki Regional Transport (HSL) についての説明が提示された。アドラー氏のプレゼンに続いて、青木から Historical values and enabling bureaucracy: Toyota's approach to green management と題するプレゼンが行われた。この報告はアドラー氏の enabling bureaucracy 概念を Historical values の役割に注目しつつ発展させたものであり、経営者が Historical values について語り継ぐことから、そこで語られる創業者がカリスマ的リーダーとして社会的価値観を重視した経営方針を正統化することが可能であることが示された。この報告の後に、アドラー氏から Value 追求型の組織管理方法の可能性などについてコメントが提示され、今後の研究発展にとっての大きな示唆を得ることが可能となった。

7. 研究課題、研究概要、研究期間中の活動実績 / Research Theme, Outline, Results

アドラー氏は上記のセミナーの外にも札幌で開催された経営情報学会の全国大会でも講演を披露し、日本の研究者との間で活発な議論を交わすことが可能となった。特にホストである青木との間では、Value に焦点を置いた bureaucracy 理論の展開可能性についての議論を展開し、これをベースとした今後の共同研究プロジェクトの可能性が切り開かれた。その一環として、2026 年にアメリカのフィラデルフィアで実施される世界最大の経営学会である Academy of Management Annual Meeting において、共同シンポジウムの開催をすべく、関連論文の投稿を 2026 年 1 月に実施することが計画された。このシンポジウムには、12 日のセミナーに参加した、清宮氏、増田氏、円城寺氏なども参加する予定である。このようにアドラー氏の今回の訪問は、日本の多くの研究者に多大なる知的刺激を与えたのみならず、ホスト研究者である青木との間での共同研究プロジェクトの計画へと繋がるものとなり、非常に意義深いものであったといえる。